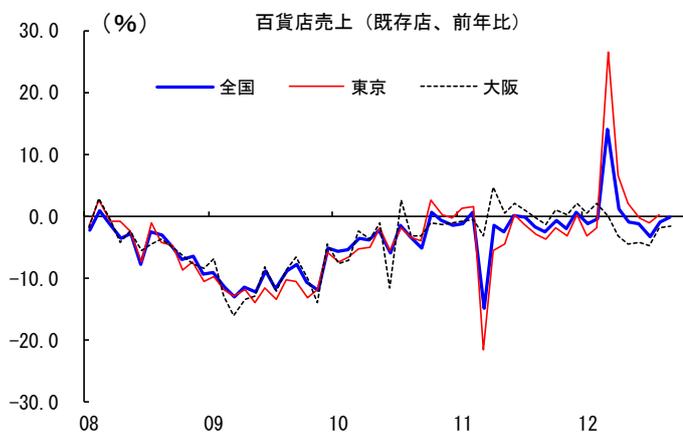


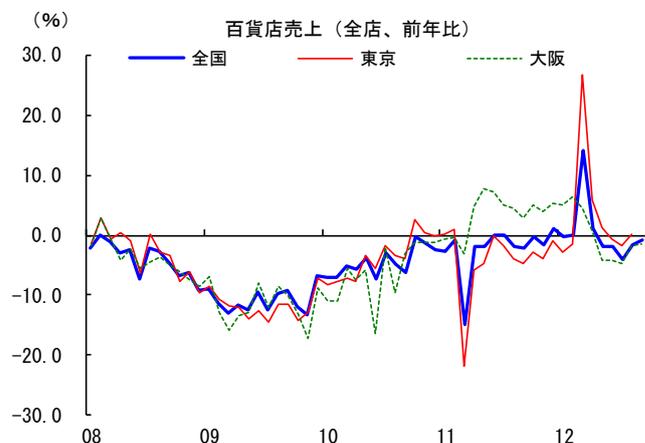
指標名:百貨店売上高(2012年9月)

発表日:2012年10月22日(月)

～高額品が好調も、秋物衣料の不振で前年並みの推移～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 星野 卓也  
TEL : 03-5221-4526

(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」

## ○9月の百貨店売上高は前年比▲0.2%

9月の百貨店売上高(全国)は前年比▲0.2%(既存店ベース)と、8月(同:▲1.0%)から減少幅を縮小、季節調整値(当社試算)をみても2ヶ月連続の前月比プラスとなった。高額消費の好調が下支えとなった形だが、季節調整値の水準をみるとセール分散などの影響で大きく落ち込んだ7月の減少分をほぼ取り戻した程度に過ぎず、回復感は乏しい。

品目別にみると、主力の衣料品は前年比▲2.2%と前年を下回った。例年この時期に本格展開する秋物衣料の販売が、残暑のために伸び悩んだことが影響した模様だ。また、台風などの天候不順を背景とした客足鈍化を受け、家庭用品(同▲1.7%)や食料品(同▲0.4%)が前年比減となった。一方で、健闘した品目が雑貨(同+3.7%)や身の回り品(同+0.9%)である。特に美術・宝飾・貴金属は同+7.1%と、高額消費は3ヶ月ぶりに前年比プラスに転じており、伸び幅も大きいものとなった。

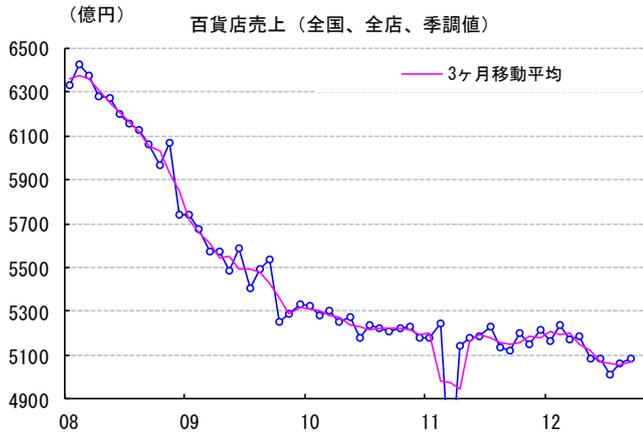
しかし、こうした高額消費の好調が衣料品の落ち込みを挽回するまでには至らなかった。日曜日が1日多いといった暦要因による押し上げ効果もあったが、9月の売上高は前年並みに留まっている。

## ○先行きの個人消費は低調に推移する公算大

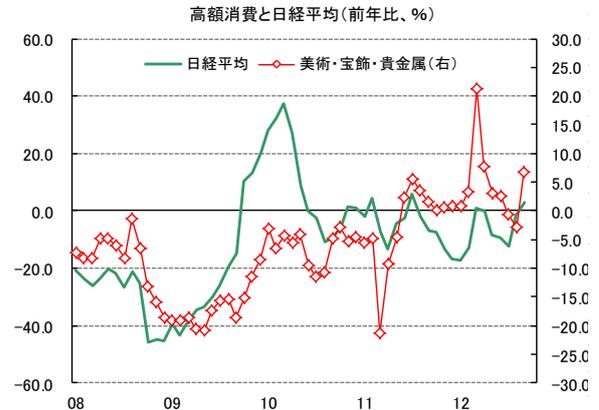
このように、9月の百貨店売上高は一部高額消費などが強めに推移したものの、秋物衣料の不振などを受け、ほぼ前年並みの推移となった。なお、本日発表された9月のチェーンストア売上高、コンビニエンスストア売上高は、それぞれ前年比(既存店ベース)▲2.0%、▲1.6%と低迷している。9月の個人消費も低調な推移が続く可能性が高そうだ。

先行きの個人消費についても、目立った持ち直しは見込み難い状況にある。エコカー補助金の終了に伴い自動車販売は当面低迷が予想されることに加え、足元では生産活動の低迷を背景に、製造業を中心に雇用・所得環境に翳りがみられつつある。生産の低迷が長期化するようであれば、非製造業にも悪影響が波及することが見込まれ、個人消費の下押し圧力となる可能性があるだろう。さらに、厚生年金保険料の引き上げや、復興増税、消費税率の引き上げなど、制度面で家計負担の増加が予定されていることも、個人消費にとって

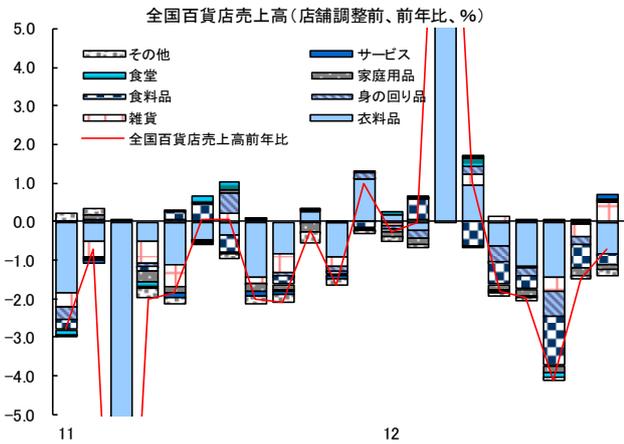
はマイナス要因だ。以上のように、消費を取り巻く環境が厳しさを増す中において、先行きの個人消費は低調に推移することが見込まれる。



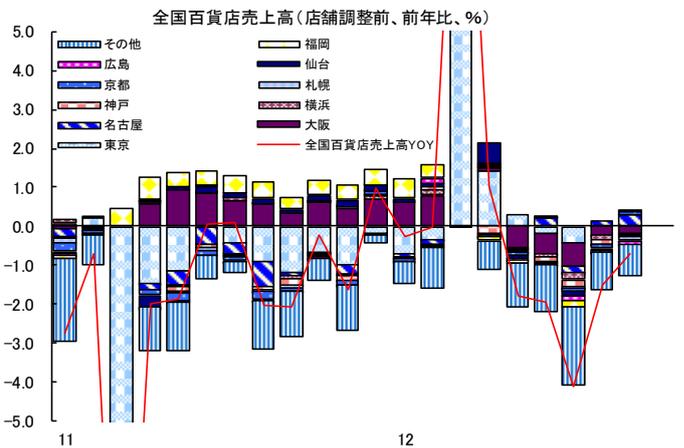
(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」  
(注) 季節調整は第一生命経済研究所



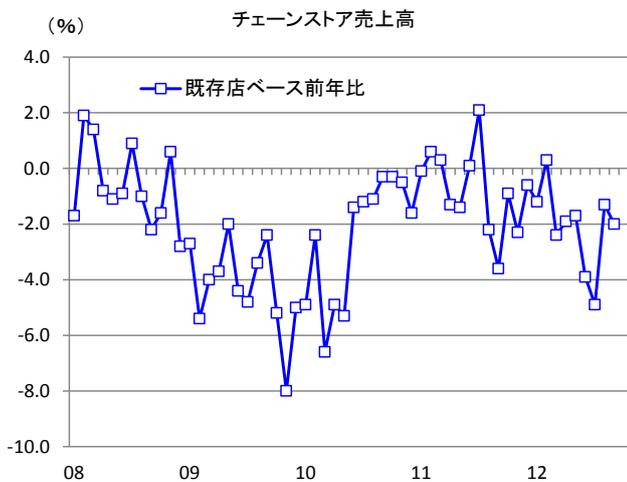
(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」、日本経済新聞社「日本経済新聞」  
※(美術・宝飾・貴金属は店舗調整前)



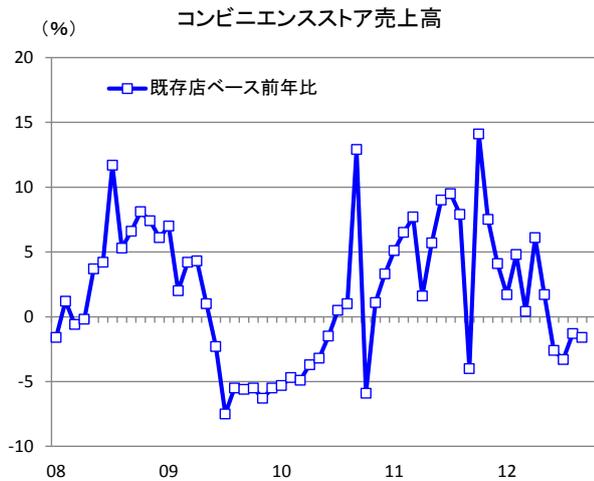
(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」



(出所) 日本チェーンストア協会



(出所) 日本フランチャイズチェーン協会

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。